

容器包装リサイクル法
排出抑制促進措置に係る定期報告記載様式

よくある質問

目次

1. 定期報告書で報告すべき数値とは
2. 【第3表】密接指標変更時の原単位の記載方法とは
3. 【第4表】密接指標変更時の変更理由の記載方法とは
4. 【第5表】密接指標変更時の5年度間平均原単位変化記載方法とは
5. 【第7表】フランチャイズチェーンの事業を行う場合の記載方法とは

1. 定期報告書で報告すべき数値とは

- 定期報告書で報告する数値は、事業者が使用している容器包装のうち、**『店舗段階あるいは消費者への販売段階で付加された』**ものである

【正しい事例】

- 商品を買った消費者に渡すレジ袋や紙袋、段ボール
- スーパーマーケットで作った惣菜を販売する際に利用するトレー

【誤った事例】

- プライベートブランド等商品を製造した時に利用した容器包装
→小売段階で事業者が付加したものではないため対象外
 - スーパーマーケットで、店舗から排出されるごみ袋
→消費者に販売するために付加されるものではないため対象外
 - 仕入段階から袋に入っていたスプーンやフォークを、顧客に提供する場合、
→小売り段階で事業者が付加したものではないため対象外
- **原単位については1以上は少数第1位まで、1未満は有効数字2桁、対前年比については有効数字1桁**とすることが望ましい。
 - 事業者が合併した場合、**合併した事業者分をすべて合算して1事業者として提出**する。この際、前年度までのどの事業者が合併対象となったか別途窓口まで報告する。

2. 【第3表】密接指標変更時の原単位の記載方法とは

- 第3表に記載する密接指標を変更した(前年度報告時の密接指標と異なる)場合、以下のいずれかの方法で、使用原単位、対前年度比を求めること。
 - ① 変更した密接指標で前年度の使用原単位を算出し、対前年度比を求める。
 - ② 前年度と同じ密接指標を用いて今年度の使用原単位を算出し、今年度の使用原単位の下に括弧書きで記載。対前年度比は括弧内の数値と前年度の数値の比として求める。

【事例1(①の方法)】

- 前年度までは「売上高」を密接指標としていたが、今年度から「店舗面積」に変更。
- 昨年度の原単位を「昨年度の店舗面積」で再度計算する。
 - プラスチック製の容器包装:0.000005(売上高)→6.86(店舗面積)
 - 紙製の容器包装:0.000002(売上高)→2.20(店舗面積)
 - 段ボール製の容器包装:0.000002(売上高)→20.13(店舗面積)
- 上記で再度計算しなおした原単位を用いて、今年度の対前年比を求める。
 - 6.86→6.62(96.5%)
 - 2.20→2.17(98.6%)
 - 20.14→17.21(85.5%)

第3表 容器包装の使用原単位(①を②で除して得た値)

		平成 26 年度	対前年度比(%)
原単位= $\frac{\text{容器包装を用いた量(①)}}{\text{当該容器包装を用いた量と密接な関係をもつ値(②)}}$	主としてプラスチック製の容器包装	6.62	96.5
	主として紙製の容器包装	2.17	98.6
	主として段ボール製の容器包装	17.21	85.5
	その他の容器包装		

2. 【第3表】密接指標変更時の原単位の記載方法とは

【事例2(②の方法)】

- 前年度までは「売上高」を密接指標としていたが、今年度から「店舗面積」に変更。
- 「売上高」を用いて、今年度の原単位を計算し、「店舗面積」で求めた原単位の下に括弧書きで記載する。
- 対前年度比を、括弧内の原単位と前年度の原単位の比で求める。
 - プラスチック製の容器包装:0.0000055→0.0000053 (96.5%)
 - 紙製の容器包装:0.0000018→0.0000017 (98.6%)
 - 段ボール製の容器包装:0.0000016→0.0000015 (95.9%)

第3表 容器包装の使用原単位(①を②で除して得た値)

		平成26年度	対前年度比(%)
原単位= $\frac{\text{容器包装を用いた量(①)}}{\text{当該容器包装を用いた量と密接な関係をもつ値(②)}}$	主としてプラスチック製の容器包装	6.62 (0.000005)	96.5
	主として紙製の容器包装	2.17 (0.000002)	98.6
	主として段ボール製の容器包装	17.21 (0.000002)	95.9
	その他の容器包装		

3. 【第4表】密接指標変更時の変更理由の記載方法とは

- 第3表に記載する密接指標を変更した場合、第4表において「変更した理由」を記載することとなっているが、理由の記載がなかったり、適切な理由とみなせない例がある。

【正しい記載事例】

- 弊社は通信販売がメインであるが、これまでは「その他(販売商品個数)」を密接指標としていた。しかし、近年は一度に多くの商品を購入するまとめ買いの増加により、複数の商品を同一のプラスチック製の袋に封入し発送するケースが増加している。また発送時に使用する段ボール製容器包装も、同一梱包同時発送である。このため、使用する容器包装は販売個数に比例した変動とはなっていない。最も容器包装の使用量と密接に関係しているのは「売上高」であり、相関も高いため、今年度報告より「売上高」に変更した。

➤ 変更理由について明確に記載しており、理由も正当である。

【適切ではない記載事例】

- 容器包装の使用量は、売上高、販売数、顧客数等の増減と密接な関係をもっており、これまではこのうち最も相関が高い顧客数としていたが、データの把握が容易である「売上高」を密接指標にすることとした。

➤ データ把握の容易性で密接指標を設定・変更しており、適切ではない。

4. 【第5表】密接指標変更時の5年度間平均原単位変化記載方法とは

- 第3表に記載する**密接指標を変更した場合**、以下のいずれかの方法で、5年度間平均原単位変化を求めること。
 - ① 変更した密接指標で過去の使用原単位を算出し、対前年度比を求める。
 - ② 算出方法を変更した際は、当該年度より記入する行を改行して記入する(2度変更した場合はその都度改行)。変更した年度の使用原単位を前年度と同じ密接指標でも算出し、その年度の使用原単位の上(密接指標変更以前の原単位を記入している行の右端)に括弧書きで記載。対前年度比は括弧内の数値と前年度の数値の比として求める。

4.【第5表】密接指標変更時の5年度間平均原単位変化記載方法とは

【事例1(①の方法)】

- 前年度までは「売上高」を密接指標としていたが、今年度から「店舗面積」に変更。
- 過去の原単位を「過去の店舗面積」で再度計算し、「店舗面積」を密接指標とした場合の対前年度比を求める。

	主としてプラスチック製の容器包装			主として紙製の容器包装			主として段ボール製の容器包装		
	売上高	店舗面積	対前年比	売上高	店舗面積	対前年比	売上高	店舗面積	対前年比
H20年度	0.000008			0.000003			0.000002		
H21年度	0.000008			0.000002			0.000002		
H22年度	0.000007			0.000002			0.000002		
H23年度	0.000006	8.56		0.000002	2.92		0.000002	16.51	
H24年度	0.000006	8.36	97.7%	0.000002	2.45	83.9%	0.000002	18.53	112.2%
H25年度	0.000006	7.90	94.4%	0.000002	2.25	91.9%	0.000002	19.26	103.9%
H26年度	0.000005	6.86	86.8%	0.000002	2.20	97.6%	0.000002	20.13	104.5%
H27年度		6.62	96.5%		2.17	98.6%		17.21	85.5%

- 上記で求めた対前年度比を用いて、5年度間平均原単位変化を算出する。

第5表 過去5年度間の容器包装の使用原単位の変化状況

		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	5年度間平均 原単位変化
主として プラスチック製 の容器包装	原単位	8.56	8.36	7.90	6.86	6.62	
	対前年度 比(%)		A	B	C	D	93.8
主として紙製 の容器包装	原単位	2.92	2.45	2.25	2.20	2.17	
	対前年度 比(%)		A	B	C	D	92.8
主として 段ボール製の 容器包装	原単位	16.52	18.53	19.26	20.13	17.21	
	対前年度 比(%)		A	B	C	D	101.0
その他の 容器包装	原単位						
	対前年度 比(%)		A	B	C	D	

4.【第5表】密接指標変更時の5年度間平均原単位変化記載方法とは

【事例2(②の方法)】

- 前年度までは「売上高」を密接指標としていたが、今年度から「店舗面積」に変更。
- 今年度報告より記入する行を改行して原単位を記入する。過去の原単位を「過去の店舗面積」で再度計算し、「店舗面積」を密接指標とした場合の対前年度比を求める。
- 「売上高」を用いて、今年度の原単位を計算し、「店舗面積」で求めた原単位の上（左側の過去の年度の欄には、「売上高」で計算した原単位が記載されている）に括弧書きで記載する。
- 上記で求めた対前年度比を用いて、5年度間平均原単位変化を算出する。

第5表 過去5年度間の容器包装の使用原単位の変化状況

		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	5年度間平均 原単位変化
主として プラスチック製の容 器包装	原単位	0.0000061	0.0000060	0.0000056	0.0000055	(0.0000053)	/
	対前年度 比(%)	/	A 84.6	B 97.7	C 94.4	D 97.5	93.4
主として紙 製の容器 包装	原単位	0.0000023	0.0000020	0.0000018	0.0000018	(0.0000017)	/
	対前年度 比(%)	/	A 95.7	B 83.9	C 91.9	D 97.6	92.1
主として 段ボール 製の容器 包装	原単位	0.0000018	0.0000018	0.0000016	0.0000016	(0.0000015)	/
	対前年度 比(%)	/	A 91.3	B 99.6	C 91.0	D 96.7	94.6
その他の 容器包装	原単位						/
	対前年度 比(%)	/	A	B	C	D	

5.【第7表】フランチャイズチェーンの事業を行う場合の記載方法とは

- フランチャイズチェーンの事業を行う事業者のように、**加盟する事業者の容器包装使用量を把握し、連携して取組を行っている場合は**、第7表の「関係者との連携」の欄に、**当該事業全体の容器包装使用量の合計値や容器包装の使用の合理化のために実施した取組、その効果を記入**すること。
- 記載事例としては、以下が挙げられる。

- 事業全体(加盟する事業者全体)の容器包装使用量及び前年比は以下のとおりである。

	プラ製容器包装	紙製容器包装	段ボール	その他容器包装
使用量	202,428kg (162,289kg)	94,167kg (46,782kg)	24,331kg	4,657kg
前年比	97.1%(96.8%)	101.0%(78.2%)	89.1%	101.1%

※()内はうち数の袋

- フランチャイズ本部にて、全店共通で使用するレジ袋削減のための普及啓発ポスターを作成し、加盟事業者に対して配布している。
- フランチャイズ本部指導のもと、「2020年度までに容器包装の使用量を原単位ベースで、2010年度比20%削減」という目標を設定している。
- 加盟事業者統一のレジ袋を使用することにより、コスト削減や容器包装の見直し、薄肉化等の取り組みを行っている。今年度はレジ袋を●%薄肉化したことにより、容器包装使用量は全体で●%削減となった。